

としょかん生活



ホームページ

2026
(令和8年)5・6
月

●編集・発行／佐用町立図書館 (さよう文化情報センター内)

すべての町民の暮らしを応援します

〒679-5301 佐用郡佐用町佐用 2585 番地 開館時間10:00~18:00

Tel: 0790-82-0874 Fax: 0790-82-0313 E-Mail: toshokantown.sayo.lg.jp

Book Review

司書おすすめの一冊

『宇宙にヒトは住めるのか』

林 公代／著 (筑摩書房) 2026年

本書は、「宇宙にヒトは住めるんですか?」と何気なく聞かれた一言から始まる。長年、宇宙分野の取材をしている著者は、宇宙飛行士たちがISS(国際宇宙ステーション)=宇宙に住んでいると知られていないことに驚きつつ、「住む」とは地上と同じ快適で豊かな暮らしが送れるのかという意味であることに気付いた。人は地球と同じように宇宙に住めるのか、なぜ宇宙を目指すのか、宇宙開発の最前線にせまる。

現在の宇宙開発では、いかに快適に人が過ごせるかという点が重要視されている。特に「食」においては、千葉大学内で試験中の月面農場での作物栽培や栄養バランスに配慮したメニュー開発に加え、美味しさや楽しさといった精神面への工夫が細やかに考えられている。極限環境にある宇宙で食事は栄養補給だけでなく、ストレス軽減やコミュニケーションを支えるという重要な役割を担うためだ。また、構想されている月面建築でも、放射線や寒暖差といった厳しい条件の中、安全性と機能性に加えて単なる生存空間を超えた暮らしを目指している。

著者は、「宇宙研究の成果が今後、地球上の食糧危機や医療、災害対策などの課題解決に貢献する。宇宙を目指すことは地球からの逃避ではなく、地球を見つめ直すことに繋がっていく」と語る。

日本の高い技術力と工夫の数々からは、宇宙開発に関わる人々の誇りと自信が伝わってくる。そうした彼らの努力は宇宙での暮らしを、私達にとってより現実味を帯びたものにしてくれる。(松本)

シリーズ図書館探検③

「レファレンスサービス (調査・相談)」

図書館では調べもののお手伝いをするレファレンスサービスがあります。知りたい事、調べたい事があるとき、図書館の資料、信頼できるWeb情報などをもとに必要な資料や、情報を紹介します。

例えば「畑の作り方が知りたい」「富士山の登山ルートが載っている本はどれ?」「テレビで紹介された本が読みたい」など知りたい事や、関連するキーワードなどをなるべく具体的に教えてください。

佐用町立図書館の資料だけで回答できない時は、兵庫県立図書館、それでもわからない時は、国立国会図書館と資料をより多く所蔵している図書館に調査を依頼して回答します。

ただし、医療、法律相談、美術品の鑑定、学校の宿題の答えなどは、お調べできません。

わからない事があればまずは、お尋ねください。



図書館カレンダー

5月 皐月 ■は休館です

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

6月 水無月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

児童書

『がんばれヘンリーくん』

ベバリー・クリアー／作
ルイス・ダーリング／絵
松岡 享子／訳

(学研) 2007年 改定新版

小学三年生のヘンリーくんはある日、お腹をすかせた一匹の犬を拾いアバラーと名付けます。お母さんに電話して飼ってもいいか聞いてみると、「自分でバスに連れて帰れるならいい」と許してくれました。

ところが、アバラーを連れてバスに乗ろうとすると、運転手さんに「生きものは箱に入れるように」と言われてしまいます。そこで、ドラッグストアでもらった箱に入れて再び乗り込めますが、今度は「きちんとふたが閉まらなければだめだ」と言われ、またもや乗車できません。知恵をしばって大きな紙袋に入れ、紙で隠してようやく乗車に成功しますが、途中でアバラーが飛び出してしまい、車内は大騒ぎになりました。

とうとうバスを降ろされることになり途方に暮れるヘンリーくんのもとに、遅い帰りを心配したお母さんの連絡で警察官がやってきます。最後はパトカーで家まで送ってもらい、無事に帰り着くことができました。(「ヘンリーとアバラー」)

アバラーとの出会いをはじめ、飼い始めたグッピーが何百匹にも増えてしまったり、アバラーの元の飼い主が現れたり、騒がしくも楽しい毎日を描いた全6話が収められています。失敗してもめげないヘンリーちゃんと愛嬌あふれるアバラーの奮闘ぶりが、ユーモアたっぷりに描かれています。

(末谷)

●春の読書会 対象図書は図書館で用意します。

日 時：5月17日(日) 10時30分～正午

対象図書：『何者』朝井リョウ／著 新潮社

対 象：高校生以上 先着10組(要申込)

申 込：5月10日(日)まで 窓口・電話で受付

●ものづくり講座「樹脂粘土で作ろう 多肉植物」

日 時：6月28日(日) 14:00～15:30

対 象：一般 参加費：350円 先着：8名

申 込：6月3日(水)～21日(日) 窓口・電話で受付



こどもの読書週間イベント開催中！

①よんでクイズに挑戦しよう！

②こどもの日スペシャルおはなし会

5/5(火・祝) 10:30～11:30



絵本

『ふしぎなたいこ』

石井桃子／文 清水 崑／絵
(岩波書店)1975年

むかし、げんごろうさんという人がふしぎな太鼓を持っていました。片方をたたいて「鼻高くなれ」というと鼻が高くなり、反対側をたたいて「鼻低くなれ」というと鼻が低くなります。

ある日、人間の鼻がどれくらい伸びるのか試してみたくなったげんごろうさんがだんだん太鼓をたたくと、鼻はニョキニョキと伸び、手の長さ、天秤棒の長さ、電信柱の長さになり、ついには雲の中まで伸びました。

ちょうどその日、天国では大工さんたちが天の川に橋をかけている最中でした。伸びてきた鼻を棒と間違えた大工さんは、鼻を橋の欄干に縛りつけてしまいました。鼻が動かなくなり驚いたげんごろうさんが、「鼻低くなれ」と、一生懸命太鼓をたたき続けると、今度は、体がどんどん持ち上がり、天国の橋につきました。

黒墨の力強い線に彩色された絵はのびやかです。げんごろうさんの鼻がどんどん伸びる様子や、下を見て目をまわし、湖に落ちておさかなになる場面は、ユーモアに溢れています。他に「かえるのえんそく」など全3話が収められています。読んでもらうなら4歳から。(尾崎)

おはなし会

★あそびせ隊おはなし会

- ・幼児・小学生と保護者
- ・毎週土曜日/14:00～14:30

★えほんの会(2～4歳と保護者)

- ・毎週日曜日/10:30～11:00
- 5月のえほん

『がたんごとん がたんごとん』
ほか

★おはなし会(5歳～小学生)

- ・毎週日曜日/11:00～11:30
- 5月のおはなし「ももたろう」

場 所：おはなしコーナー

申 込：不要

